

福島県立医科大学 学術機関リポジトリ



Title	令和5年度ふくしま看護モデル検討部会キャリア形成班 第1回ホームカミングディ報告書：学内活動
Author(s)	高橋, 香子; 丸山, 育子; 石井, 佳世子; 鈴木, 学爾
Citation	福島県立医科大学看護学部紀要. 26: 27-28
Issue Date	2024-03
URL	http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/2220
Rights	© 2024 福島県立医科大学看護学部
DOI	
Text Version	publisher

This document is downloaded at: 2024-05-07T18:28:56Z

学 内 活 動

令和5年度 ふくしま看護モデル検討部会 キャリア形成班
第1回 ホームカミングデイ 報告書ふくしま看護モデル検討部会 高橋 香子
キャリア形成班：丸山 育子，石井佳世子，鈴木 学爾

ふくしま看護モデル検討部会キャリア形成班では就職してからの悩みや不安等を仲間や教員と共有し、エネルギー補充の場となることを目的に「ホームカミングデイ」を企画・実施した。

15：25 閉会 ふくしま看護モデル検討部会長

15：30 集合写真撮影，解散

*終了後も卒業生同士で歓談できるように学生ラウンジを開放

【日 時】令和5年5月13日(土) 14：00～15：30

【場 所】8号館（看護学部棟）3階学生ラウンジ

【参加者】令和5年3月卒業生（看護学部22期生）

- ・対面参加卒業生11名
 - ・ZOOM参加卒業生1名
 - ・教員参加者8名
(看護学部長，検討部会長，キャリア形成班3名，母性看護学領域教員2名，学術委員1名)
 - ・同窓会会長1名
- 合計21名

【当日の流れ】

- 14：00 開会
 14：02 挨拶 看護学部長 坂本 祐子
 14：05 同窓会長 東 泰弘様
 14：10 各部門・領域から卒業生へのメッセージ
 ～基礎看護学領域，小児看護学領域，成人看護学領域，精神看護学領域，地域看護学領域，母性看護学領域，老年看護学領域～
 14：00 参加者自己紹介（自分の近況等）
 14：45 テーブルごとに懇談
 15：20 諸連絡

【実施後のアンケート結果】

ホームカミングデイ終了後に行った満足度調査では、12名中10名の回答が得られた。

開催時期や開始時間については、7割が適切、3割がほぼ適切と回答し、開催時間についても8割が適切、2割の卒業生がやや短かったと回答しており、適切な時期・時間帯であったと考えられる。

開催内容・方法についても9割が適切、1割がやや適切と回答している。また、参加した教員の人数については7割が適切と回答しているが、3割の卒業生がやや少ないと回答している。開催時間が短い、もっと多くの教員に参加してほしいなどの回答がみられた。

「悩みや困りごとを話せる場となったか」についての回答では、5割の学生が最高評価をつけていた。全体の満足度でも全員が70点以上の満足度を回答し、4割の卒業生が最高評価をつけていることから満足度も高かったものと考えられる。

自由回答でも「リフレッシュになって良かったです!」「年に1回とかではなく、定期的で開催してもらえるとその時々の悩みを相談できそうかなと思った。」と回答しており、今回のホームカミングデイの目的を果たすことができたと考えられる。

【第1回ホームカミングデイの様子】





【今後の課題】

1. 周知時期

参加対象者には卒業前の3月の時点で、ホームカミングデイの開催予定を説明し、連絡用のメールアドレスを登録してもらい、4月上旬に開催日などを周知した。数名の卒業生から開催日には既に予定を入れてしまったとの声もあったため、3月の時点で開催日を周知することが必要と思われた。

2. 開催方法

新型コロナウイルスの感染状況から、リアル開催とZOOMによるハイブリット方式で開催した。ZOOMでの申込みは2名、実際の参加は1名であった。ハイブリット方式での開催は、当日だけでなく事前準備の際にもZOOM対応が必要であり、教員の負担も増えるため班以外の教員にサポートしてもらう場面もあった。今後ハイブリット開催の場合には担当の教員数を増やす必要があると考える。

3. 開催頻度

今回参加した卒業生の中には、令和5年2月に開催し

たホームカミングデイに在校生として参加していた者が数人いた。在学中からホームカミングデイの趣旨を理解してもらうことで、卒業後にホームカミングデイに参加しようという気持ちにつながり、本事業の目的である「卒業生と在校生とがつながる糸口となるようにする」事の達成に繋がるものと考えられる。参加した卒業生のアンケートにも「年1回ではなく定期的に開催してもらえると、その時々悩みを相談できそうかなと思った」という意見があり、定期的に開催していく事が望ましいと考える。

4. 同窓会との連携強化

今回のホームカミングデイには同窓会会長に挨拶をいただくことができた。参加した卒業生は同級生同士の横の繋がりや帰属意識の深まりだけでなく、同窓生としての縦の繋がりがあることを実感する機会になったと考えられる。看護学部VISION2018では同窓生同士の繋がり強化も課題となっていることから、同窓会から協力いただくことも念頭に置いて、今後のホームカミングデイの開催方法・内容を検討していく事が望ましいと考える。